

## 第107回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

前回の火山噴火予知連絡会（今年2月17日）以降の全国の火山活動を検討した結果、現在までの火山活動の評価は以下のとおりです。

### 主な火山活動

桜島では、5月中旬以降、昭和火口で小規模な噴火が時々発生し、火山ガス放出量の増加もみられるなど、火山活動はやや活発な状況が続いています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

御嶽山では、昨年12月以降、火山性地震や微動の増加、御嶽山のわずかな膨張が続き、今年3月にはごく小規模な噴火が発生しました。しかし、4月以降火山性地震や微動は少なくなり、御嶽山の膨張もほとんど停止するなど、火山活動は静穏な状況に戻っています。

口永良部島では、火山性地震や微動がやや多く、火山活動はやや活発な状況が続いています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

硫黄島では、昨年8月に始まった島北部を中心とした島全体の大きな隆起はやや鈍化しながらも継続し、火山性地震もやや多い状態が続き、火山活動はやや活発な状況となっています。今後の火山活動に注意が必要です。

三宅島では、火山活動に全体として大きな変化はなく、やや活発な状況で経過しています。多量の火山ガス放出は当分継続すると考えられます。

### 各地方の主な活火山の火山活動

#### 1. 北海道地方

##### 雌阿寒岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

##### 十勝岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

##### 樽前山 [やや活発な状況]

- ・A火口およびB噴気孔群では高温が続いており、火山活動はやや活発な状況で経過しています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

##### 倶多楽 [静穏な状況]

- ・大正地獄でごく小規模な熱湯噴出が見られましたが、噴気活動や地震活動には特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。

有珠山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

北海道駒ヶ岳 [静穏な状況]

- ・北海道駒ヶ岳の膨張を示すわずかな伸びは引き続き観測されていますが、噴気活動や地震活動に変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。

恵山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

2. 東北地方

岩手山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

秋田駒ヶ岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

栗駒山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

吾妻山 [静穏な状況(レベル1)]

- ・昨年7月頃からやや増加していた火山性地震は、今年4月以降少なくなっています。
- ・今年5月に大穴火口で行った繰り返しGPS観測で、火口付近の膨張を示す地殻変動が確認されましたが、山体でのGPS連続観測には特段の変化は見られていません。
- ・大穴火口の噴気活動は低調で、火山活動は静穏に経過しています。

安達太良山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

磐梯山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

3. 関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島

那須岳 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

草津白根山 [静穏な状況(レベル1)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

浅間山 [静穏な状況(レベル1)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 新潟焼山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 御嶽山 [静穏な状況] 2007年5月25日にやや活発から引き下げ

- ・昨年12月、御嶽山の膨張を示すわずかな地殻変動が始まり、その後、火山性地震増加や微動発生が見られるなど、火山活動はやや活発な状況となりました。
- ・今年3月中旬以降には、山頂付近で噴気が時々観測されるようになりました。
- ・4月以降、火山性地震や微動は少なくなり、御嶽山の膨張を示すわずかな地殻変動もほぼ停止した状態で経過しており、火山活動は静穏な状況になったと考えられます。
- ・なお、5月下旬の現地調査で、山頂付近にある79-7火口から北東側約200m範囲の残雪表面に火山灰を確認しました。3月後半に79-7火口でごく小規模な噴火があったと推定されます。

#### 白山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 富士山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 箱根山 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 伊豆東部火山群 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 伊豆大島 [静穏な状況(レベル1)]

- ・深部へのマグマ注入によると考えられる長期的な島全体の膨張傾向は、昨年8月頃からわずかな収縮に転じていましたが、今年3月頃から再び膨張傾向が見られています。
- ・4月以降、カルデラ直下で地震がやや増加しているほか、島の北部や西方海域などでも一時的な地震増加が見られています。これまでも島全体の膨張が加速した場合には、同様な地震活動の活発化が見られていました。
- ・6月8日と12日に北山麓で発生したと考えられる振幅のごく小さな火山性微動が観測されています。
- ・三原山の熱活動には特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しています。

#### 三宅島 [やや活発な状況]

- ・二酸化硫黄放出量は一日あたり1千～3千トンと、依然として多量の火山ガス放出が続いています。
- ・昨年8月24日以降、噴火の発生はありません。地震活動や地殻変動にはこれまでの傾向と比べ特に大きな変化は見られていません。
- ・火山活動には全体として大きな変化はなく、やや活発な状況で経過しています。
- ・二酸化硫黄を含む多量の火山ガス放出は当分継続すると考えられます。風下にあたる地区では局所的に二酸化硫黄濃度が高くなることがありますので、引き続き火山

ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも注意が必要です。

#### 八丈島 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 硫黄島 [やや活発な状況]

- ・昨年8月頃に始まった島北部を中心として島全体が大きく隆起している地殻変動は、今年1月以降鈍化しながら現在も継続しています。これにほぼ同期して、地震活動も昨年末に比べ低下しましたが、やや活発な状態が続いています。
- ・火山活動はやや活発な状況で経過しています。従来から小規模な水蒸気爆発が繰り返されてきた、島北部の元山地域を取り囲む円周上(東部や北部の海岸部から阿蘇台あそだい陥没孔かんぼつこうから千鳥ヶ原ちどりがはらにかけて)の領域では、引き続き火山活動に注意が必要です。

#### 福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

- ・変色水が度々観測されるなど、火山活動はやや活発な状況で経過しています。

### 4.九州地方及び南西諸島

#### 九重山 [静穏な状況(レベル1)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 阿蘇山 [静穏な状況(レベル1)]

- ・中岳第一火口の火山活動は静穏に経過していますが、火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。
- ・なお、南阿蘇村吉岡(中岳第一火口から西南西約6km)の噴気地帯では、昨年以降やや強い噴気活動が続いており、今後も注意が必要です。

#### 雲仙岳 [静穏な状況(レベル1)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 霧島山

#### 新燃岳 [静穏な状況(レベル1)]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

#### 御鉢 [静穏な状況(レベル1)] 2007年3月5日にやや活発(レベル2)から引き下げ

- ・2月5日に振幅のやや大きな火山性微動が発生し、火山活動は一時的にやや活発となりました。
- ・その後は振幅の小さな火山性微動が時々発生する程度で、火山性地震も少なく、火山活動は静穏な状況となっています。

#### 桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)]

- ・5月中旬以降、昭和火口で高さ1000mを超える噴煙を上げる小規模な噴火が繰り返されています。また、南岳山頂火口では爆発的噴火が時々発生しています。
- ・火山性地震や微動の回数は5月に入ってから減少し、その直後から振幅のやや大き

なB型地震 が時々発生しています。

- ・昭和火口の噴火開始以降、二酸化硫黄放出量はそれまでの一日あたり数百トンから2千～3千トンに増加しています。桜島では、南岳山頂火口の噴火活動が活発であった1974年から2001年にかけて、現在を上回る2千～4千トン程度の二酸化硫黄放出量が観測されていました。
- ・地殻変動観測では、始良カルデラ(鹿児島湾奥部)の地下深部へのマグマ注入による膨張が引き続き観測されています。
- ・現在のところ、多量のマグマが桜島直下に移動・上昇したことを示す観測データは認められていません。
- ・火山活動はやや活発な状況で経過しています。南岳山頂火口及び昭和火口の周辺では引き続き注意が必要です。また、風下側にあたる地区では局所的に二酸化硫黄濃度が高くなる場合がありますので、火山ガスに対する注意が必要です。

火山性地震には、通常の構造性地震と同じようなP波、S波が明瞭で高周波の波動からなるA型地震と、位相が不明瞭な低周波のB型地震があります。桜島のA型地震は、マグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされています。過去の活動において、A型地震が多発したり、震源が浅部に移動した後、B型地震が増加し噴火活動が活発になった事例があります。

#### 薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル2)]

- ・硫黄岳火口の噴煙活動はやや活発で、火山性地震の一時的な増加が時々見られるなど、火山活動はやや活発な状況で経過しています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

#### 口永良部島 [やや活発な状況(レベル2)]

- ・火山性地震や微動は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いています。
- ・昨年9月頃から続いていた新岳付近の膨張を示す地殻変動は、12月以降鈍化しながら現在もわずかに継続しています。
- ・新岳火口及びその地下での熱活動の高い状態が続いています。
- ・火山活動はやや活発な状況で経過しています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

#### 諏訪之瀬島 [活発な状況(レベル3)]

- ・御岳火口では爆発的噴火が時々発生したほか、小規模な噴火を繰り返すなど、噴火活動が継続しています。
- ・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、集落で時折降灰を確認しました。
- ・火山活動は活発な状況で経過しています。火口周辺では引き続き注意が必要です。

#### 硫黄島 [静穏な状況]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

---

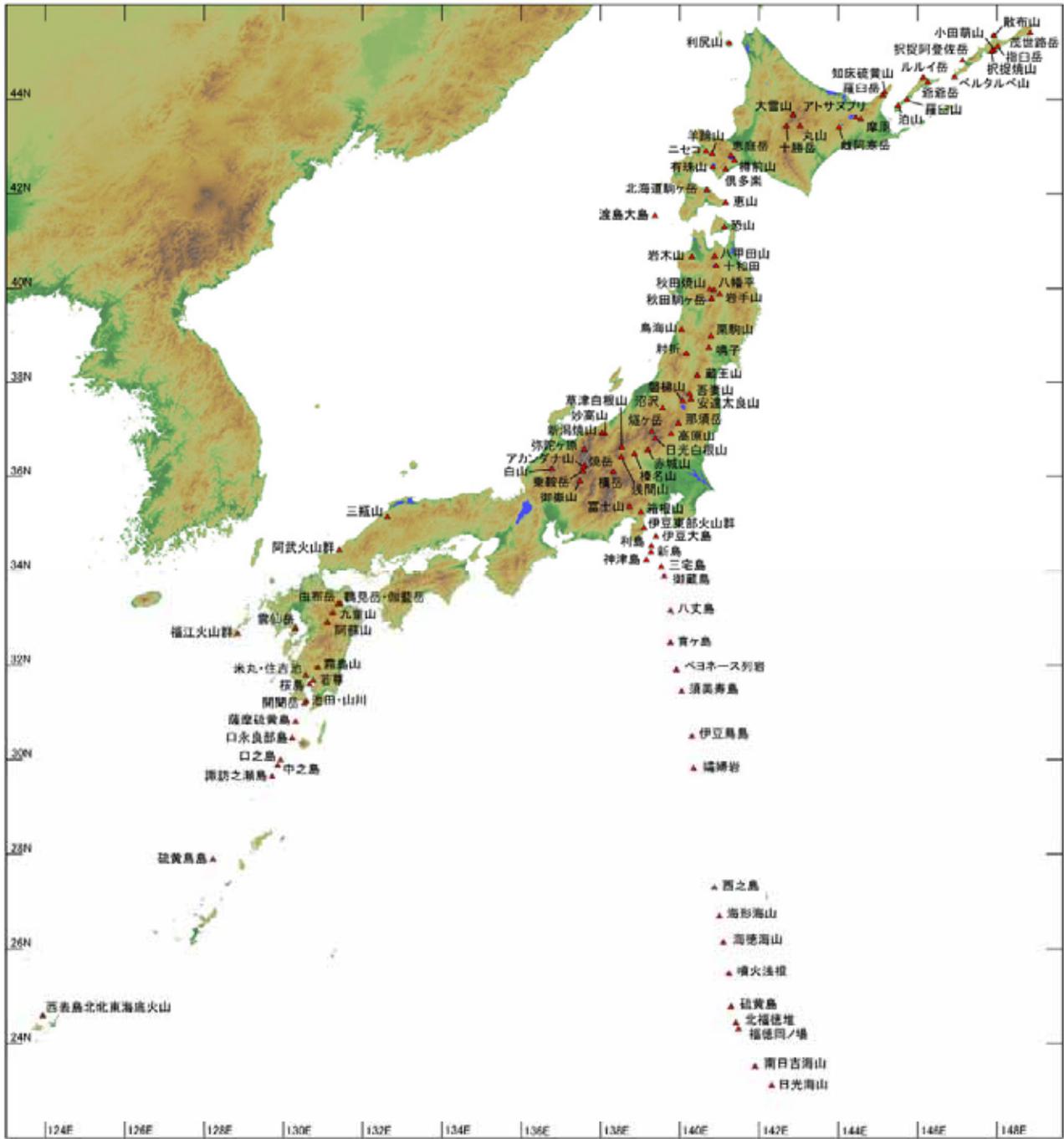
注)本資料で示すレベルとは、12火山に導入している火山活動度レベルをいう。

第107回火山噴火予知連絡会による各地方の主な活火山の火山活動評価の結果

	火山名	火山活動評価	
		現在	最近の活動経過
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
			平成18年 2月18日 やや活発
			3月21日【噴火】活発
			6月12日 やや活発
			8月25日 静穏
	十勝岳	静穏な状況	平成17年 6月21日 やや活発 平成19年 2月16日 静穏
	樽前山	やや活発な状況	平成17年 6月21日 やや活発
東北地方	倶多楽	静穏な状況	平成18年 2月28日 静穏
	有珠山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	恵山	静穏な状況	平成17年11月 2日 静穏
	岩手山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島	栗駒山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏
	吾妻山	静穏な状況（レベル1）	平成17年 2月 1日 静穏
	安達太良山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	磐梯山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	那須岳	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
			平成17年 2月 1日 静穏（レベル1）
			平成15年11月 4日 やや活発（レベル2）
			平成16年 7月20日 静穏（レベル1）
			7月31日 やや活発（レベル2）
			9月 1日【噴火】活発（レベル3）
	草津白根山	静穏な状況（レベル1）	平成17年 6月21日 やや活発（レベル2） 平成18年 9月22日 静穏（レベル1）
	浅間山	静穏な状況（レベル1）	平成18年 2月28日 静穏
	新潟焼山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
	御嶽山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏
			平成19年 1月19日 やや活発
5月25日 静穏			
白山	静穏な状況	平成17年11月 2日 静穏	
富士山	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏	
箱根山	静穏な状況	平成18年11月14日 静穏	
伊豆東部火山群	静穏な状況	平成17年 6月21日 静穏	
伊豆大島	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月 4日 静穏（レベル1）	
三宅島	やや活発な状況	平成17年 6月21日 やや活発	
八丈島	静穏な状況	平成18年 2月28日 静穏	
		平成17年 6月21日 静穏	
		平成19年 1月 9日 やや活発	
硫黄島	やや活発な状況	平成17年11月 2日 やや活発	
福德岡ノ場	やや活発な状況		

	火山名	火山活動評価	
		現在	最近の活動経過
九州 地 方 及 び 南 西 諸 島	九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年 2月 1日 静穏（レベル1）
	阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月 4日 やや活発（レベル2）
			平成16年 1月14日【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3）
			2月13日 やや活発（レベル2）
			平成17年 4月14日【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3）
			5月13日 やや活発（レベル2）
			平成18年 1月20日 静穏（レベル1）
			3月24日 やや活発（レベル2）
			8月 4日 静穏（レベル1）
	雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月 4日 静穏（レベル1）
	霧島山（新燃岳）	静穏な状況（レベル1）	平成17年 2月 1日 静穏（レベル1）
			平成18年 2月 1日 やや活発（レベル2）
			5月22日 静穏（レベル1）
			12月 3日 やや活発（レベル2）
	霧島山（御鉢）	静穏な状況（レベル1）	平成19年 1月 9日 静穏（レベル1）
平成17年 2月 1日 やや活発（レベル2）			
平成18年 5月22日 静穏（レベル1）			
平成19年 2月 5日 やや活発（レベル2）			
桜島	比較的静穏な噴火活動 （レベル2）	3月 5日 静穏（レベル1）	
		平成17年 2月 1日 やや活発（レベル2）	
		平成18年 5月22日 静穏（レベル1）	
薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成15年11月 4日 比較的静穏な噴火活動 （レベル2）	
		平成18年 6月12日【昭和火口から噴火】 活発（レベル3）	
		8月18日 比較的静穏な噴火活動 （レベル2）	
口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年 2月 1日 やや活発（レベル2）	
諏訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年 2月 1日【噴火継続】 活発（レベル3）	
硫黄島	静穏な状況	平成19年 2月16日 静穏	

注) 最近の活動経過欄は、火山活動度レベル導入火山( )にはレベル導入日からの、それ以外の火山( )には第101回火山噴火予知連絡会(平成17年6月21日開催)以降最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示しています。



日本における108活火山の分布図

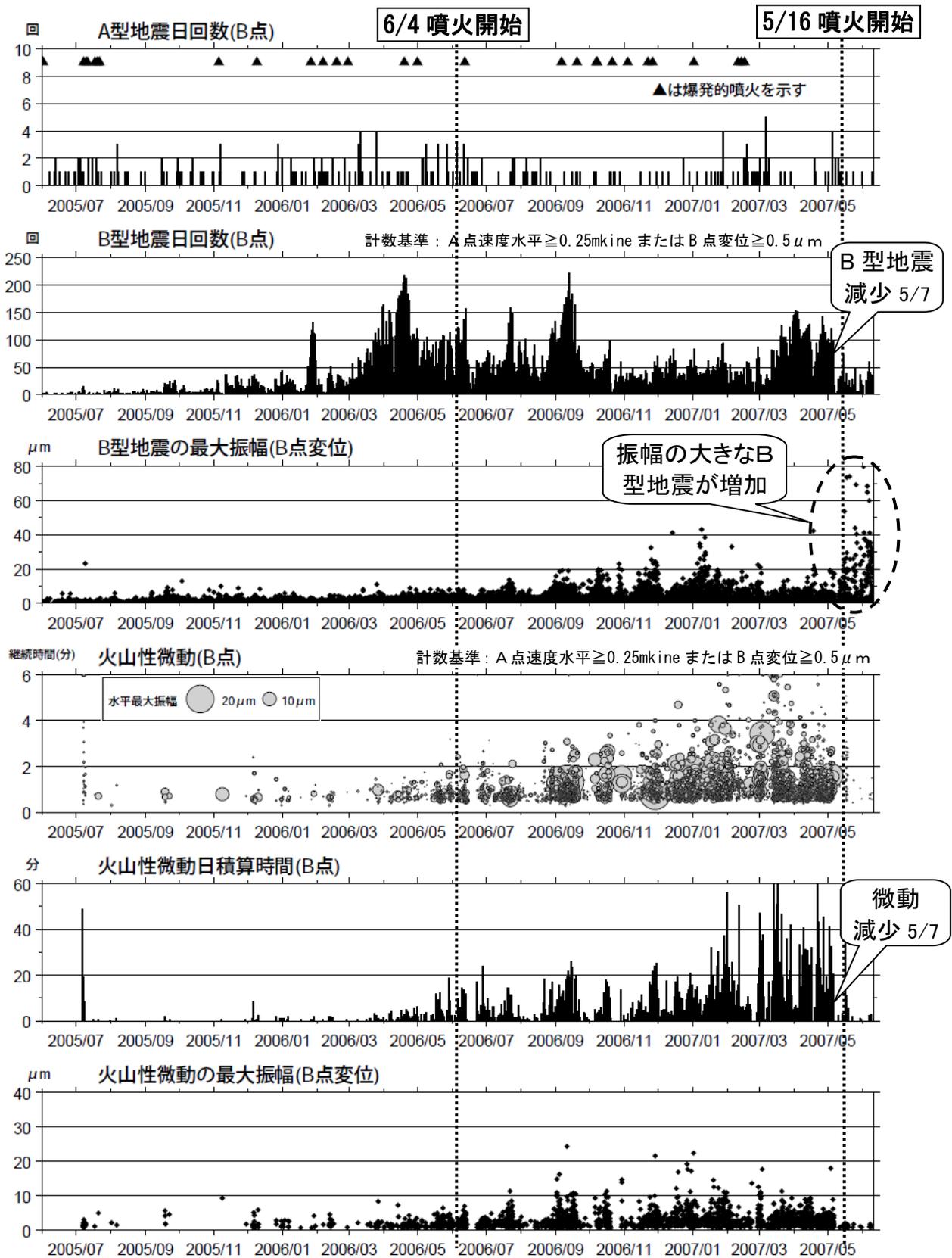


図3 桜島 最近2年間の地震・微動の状況（2005年6月1日～2007年6月10日）

- ・ 3月下旬から5月上旬までは地震・微動ともやや多い状態が続いていたが、5月7日以降は急激に少なくなった。
- ・ 5月15日以降は振幅の大きなB型地震が多くなっている。

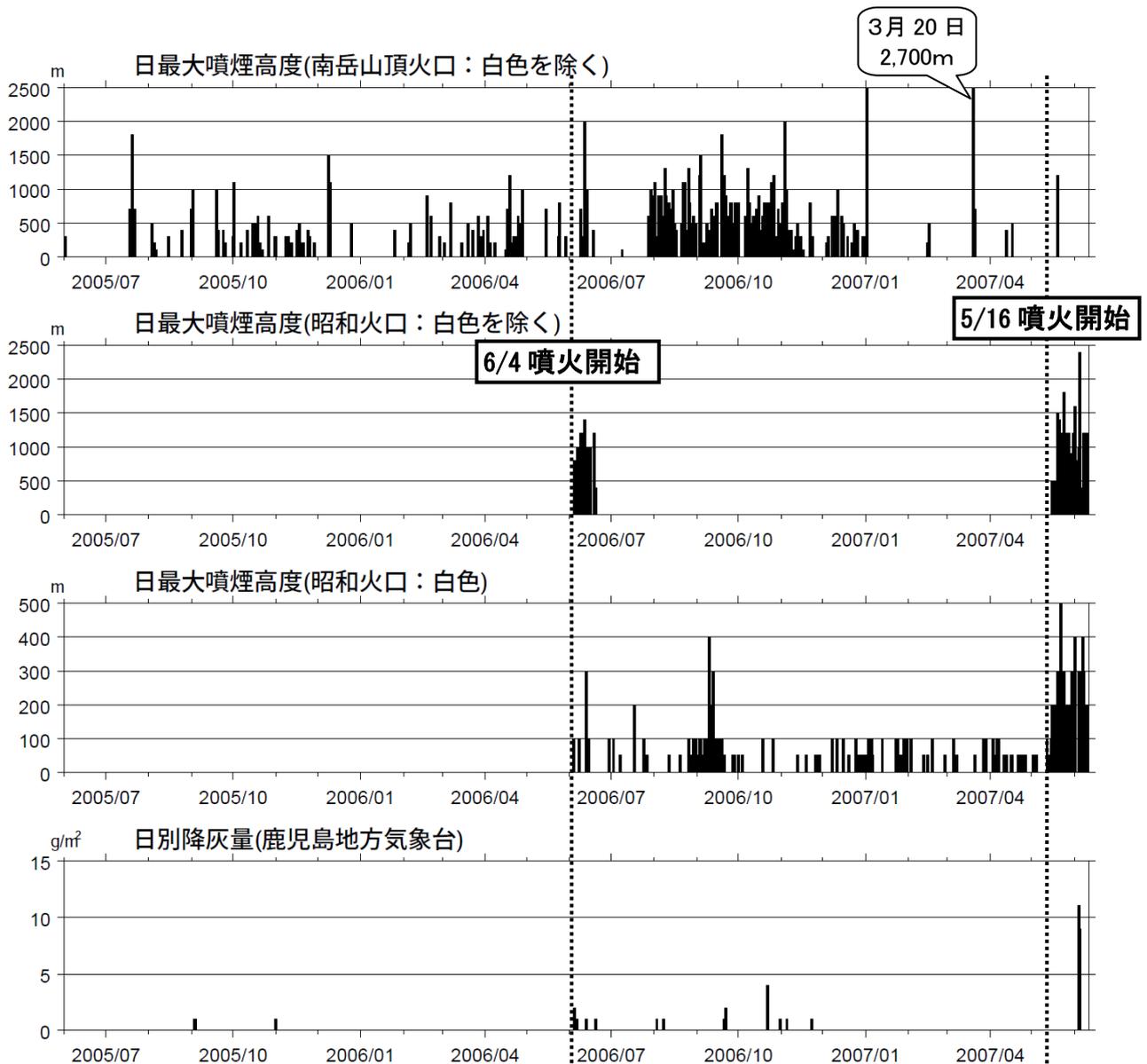


図 4 桜島 最近 2 年間の噴煙の状況、降灰量 (2005 年 6 月 1 日～2007 年 6 月 10 日) 南岳山頂火口

- ・ 2 月に 3 回、3 月に 2 回、5 月に 1 回の小規模な噴火を観測した。
- ・ 2 月の噴火 3 回は全て爆発的噴火であった。
- ・ 3 月 20 日の噴火では、噴煙が火口縁上 2,700m まで上がった。

**昭和火口**

- ・ 5 月 16 日にごく小規模な噴火を観測し、その後も断続的に続いている。
- ・ 5 月 20 日以降は、噴煙量が中量以上の噴火を時々観測している。
- ・ 噴煙の高さの最高は、6 月 5 日 13 時 50 分の噴火に伴う火口上 2,400m であった。

**降灰量**

- ・ 5 月 29 日以降、時々降灰を観測した。
- ・ 気象台で降灰を観測したのは、昨年(2006 年)11 月 25 日(0.5g/m<sup>2</sup>未満)以来である。



2007 年 5 月 24 日  
10 時 22 分  
(鹿児島県の協力により北東側上空から撮影)

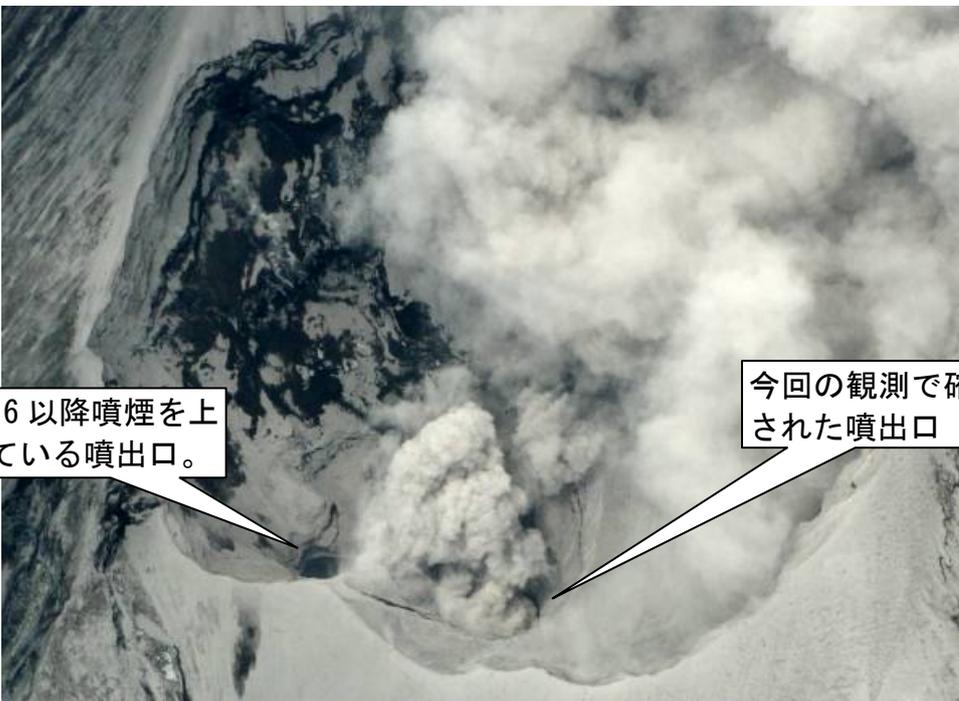
火口上 1,000m まで噴煙を上げた。



2007 年 6 月 5 日  
13 時 50 分  
(気象台から撮影)

これまでで最高の火口上 2,400 m まで噴煙を上げた。

図 13 桜島 昭和火口の噴火活動 2 (2007 年 5 月 24 日～6 月 5 日)

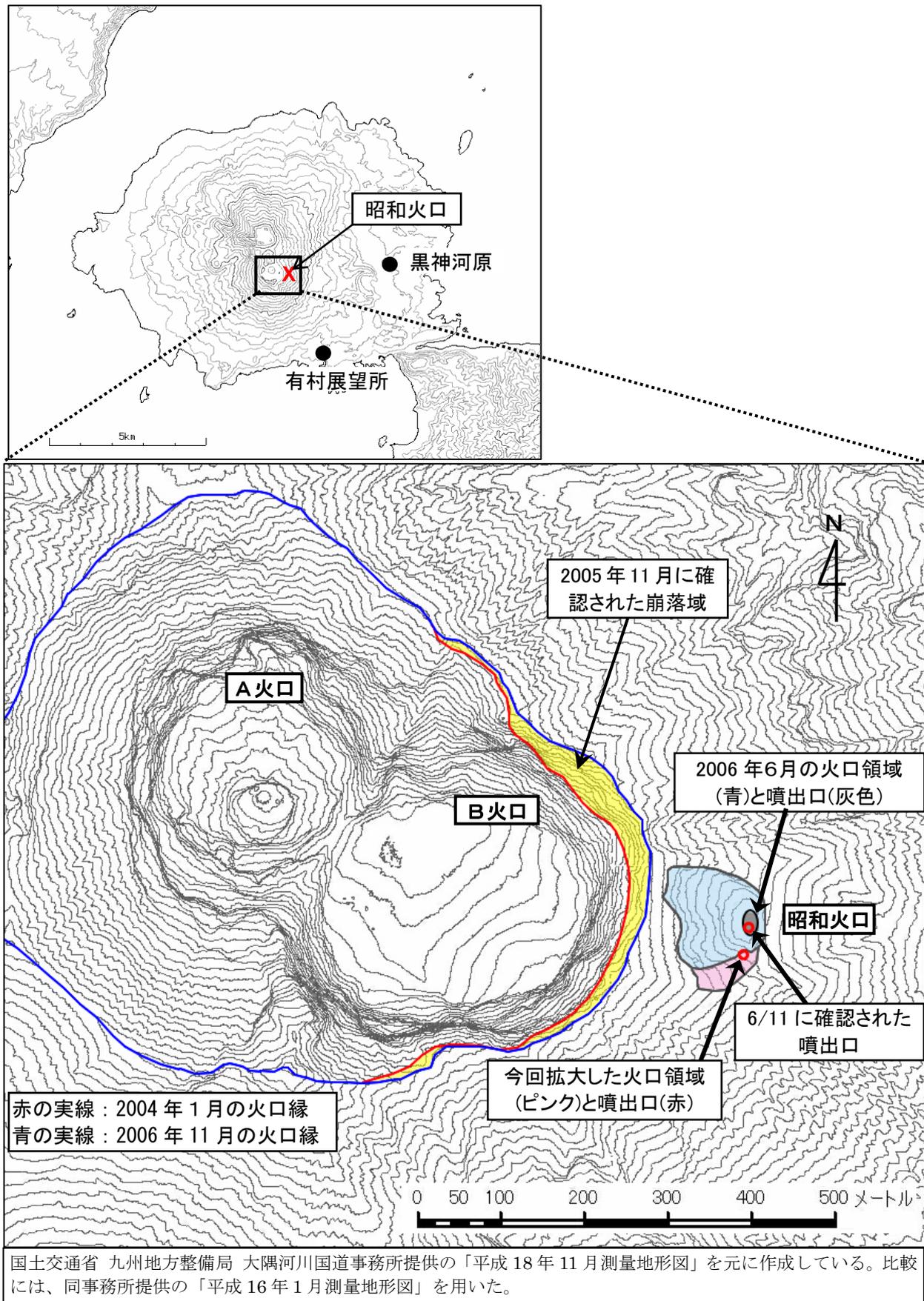


5/16 以降噴煙を上げている噴出口。

今回の観測で確認された噴出口

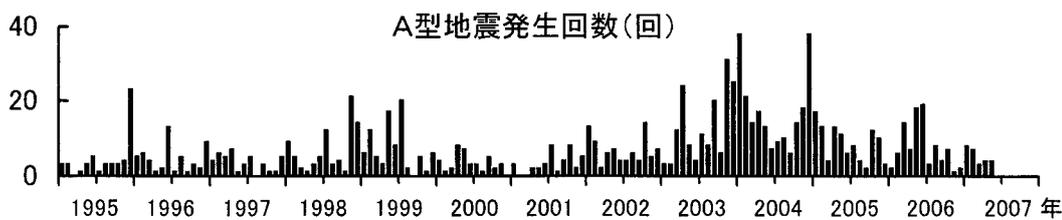
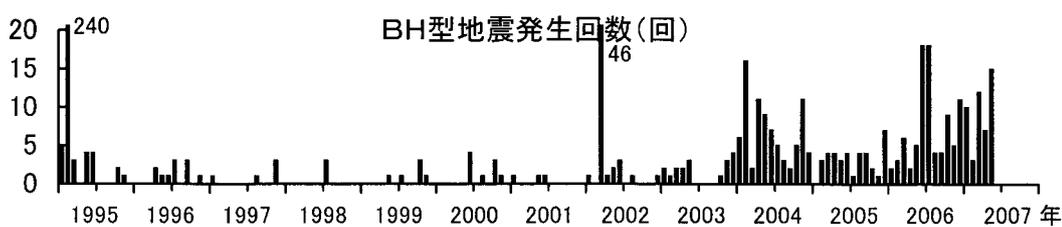
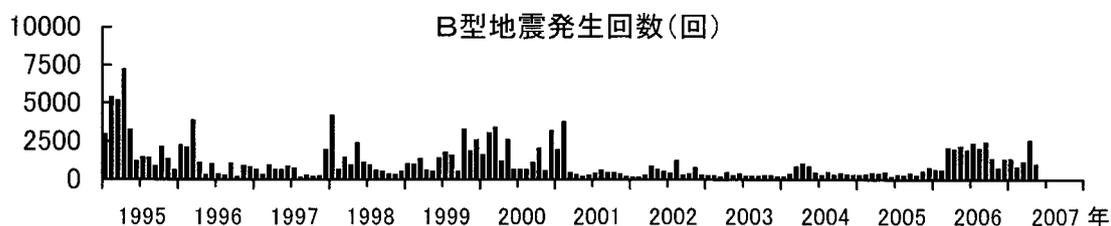
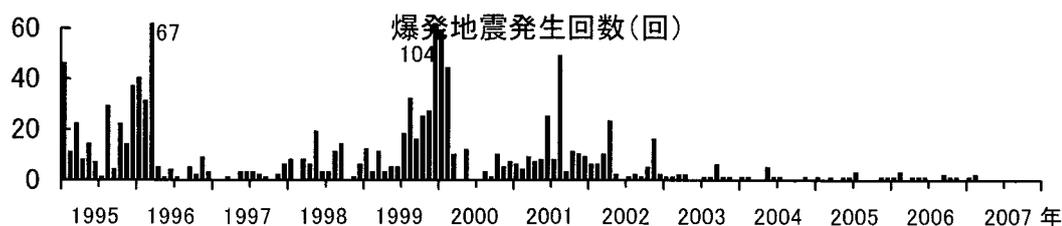
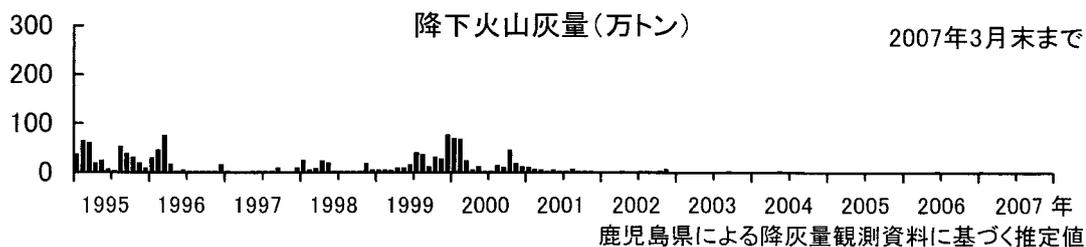
図 14 桜島 昭和火口の噴出口 (2007 年 6 月 11 日)

・ 6 月 11 日に海上自衛隊の協力により行なった上空からの観測では、5 月 24 日に確認された火口内南側の噴出口のほかに、昨年の噴出口とほぼ同じ場所にも噴出口が確認され、両方から噴煙を上げていた。



国土交通省 九州地方整備局 大隅河川国道事務所提供の「平成 18 年 11 月測量地形図」を元に作成している。比較には、同事務所提供の「平成 16 年 1 月測量地形図」を用いた。

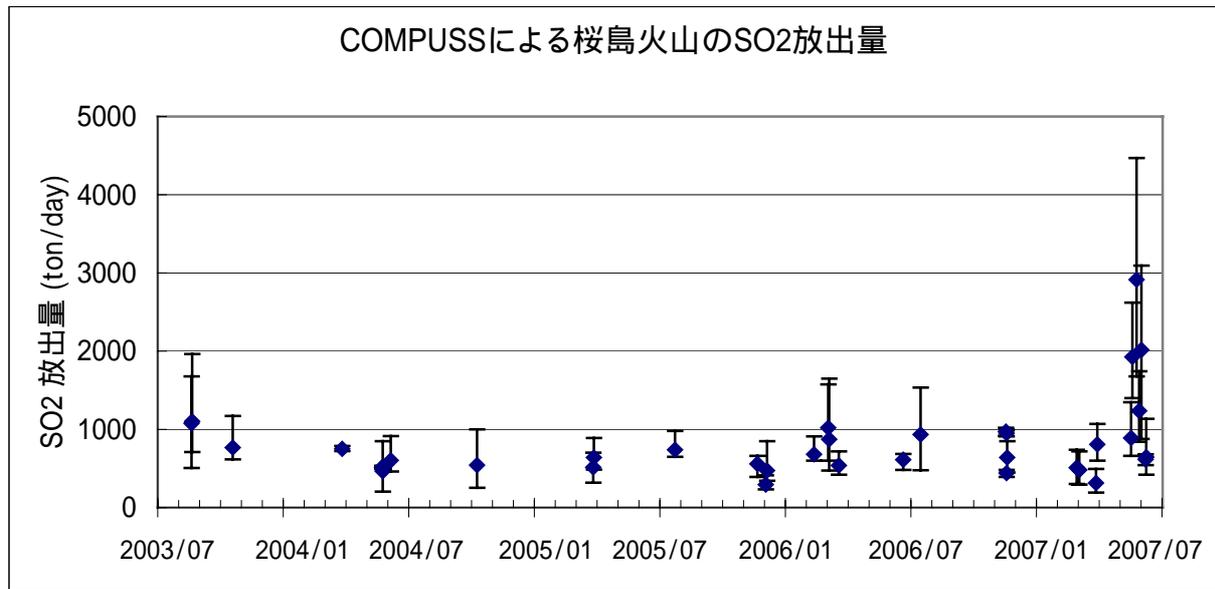
図 15\* 桜島 現地観測の位置図(上図)と南岳山頂火口と昭和火口の位置図(下図)  
 ・今回の噴出口は、前回(2006年6月)の火口が南側に広がって出来ていた。  
 ・6月11日には、昨年とほぼ同じ場所に新たな噴出口を確認した。



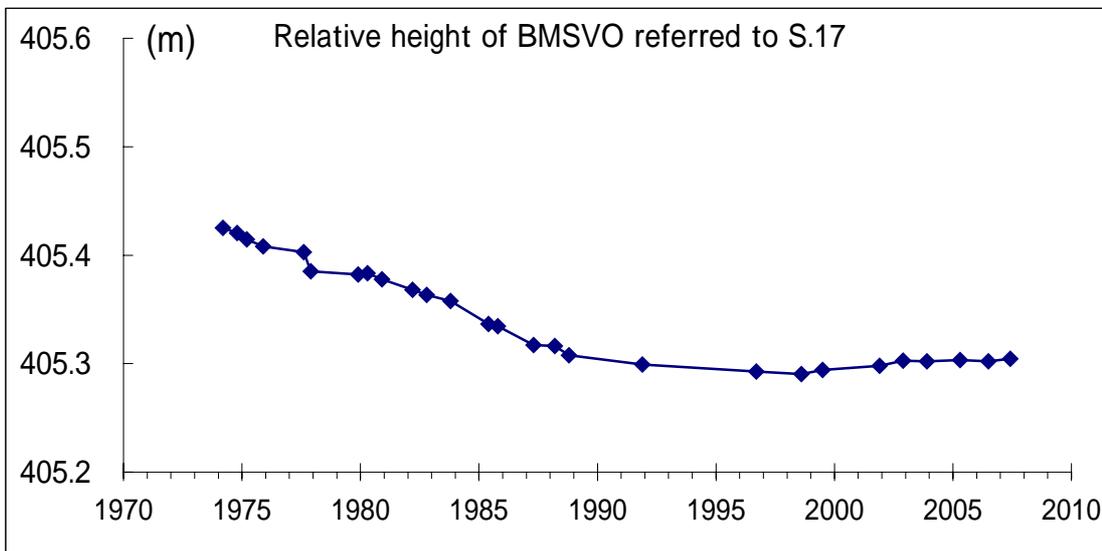
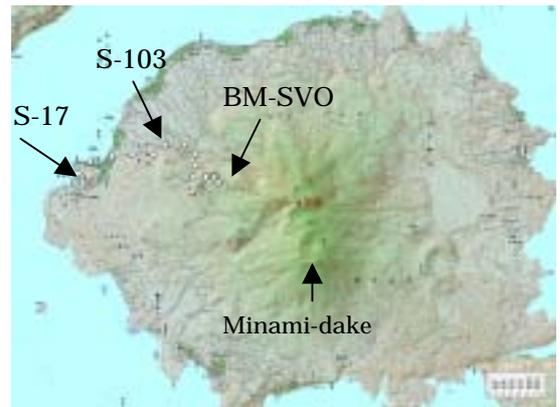
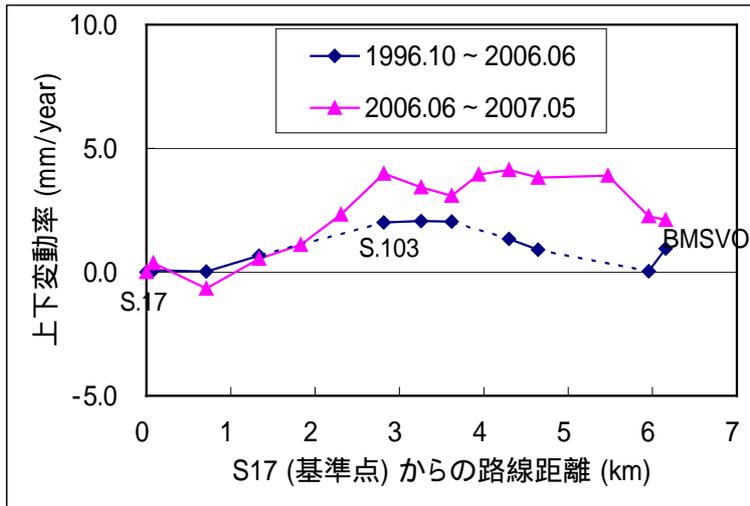
桜島における火山性地震の月別発生回数と降下火山灰量  
(2007年5月31日まで)

桜島

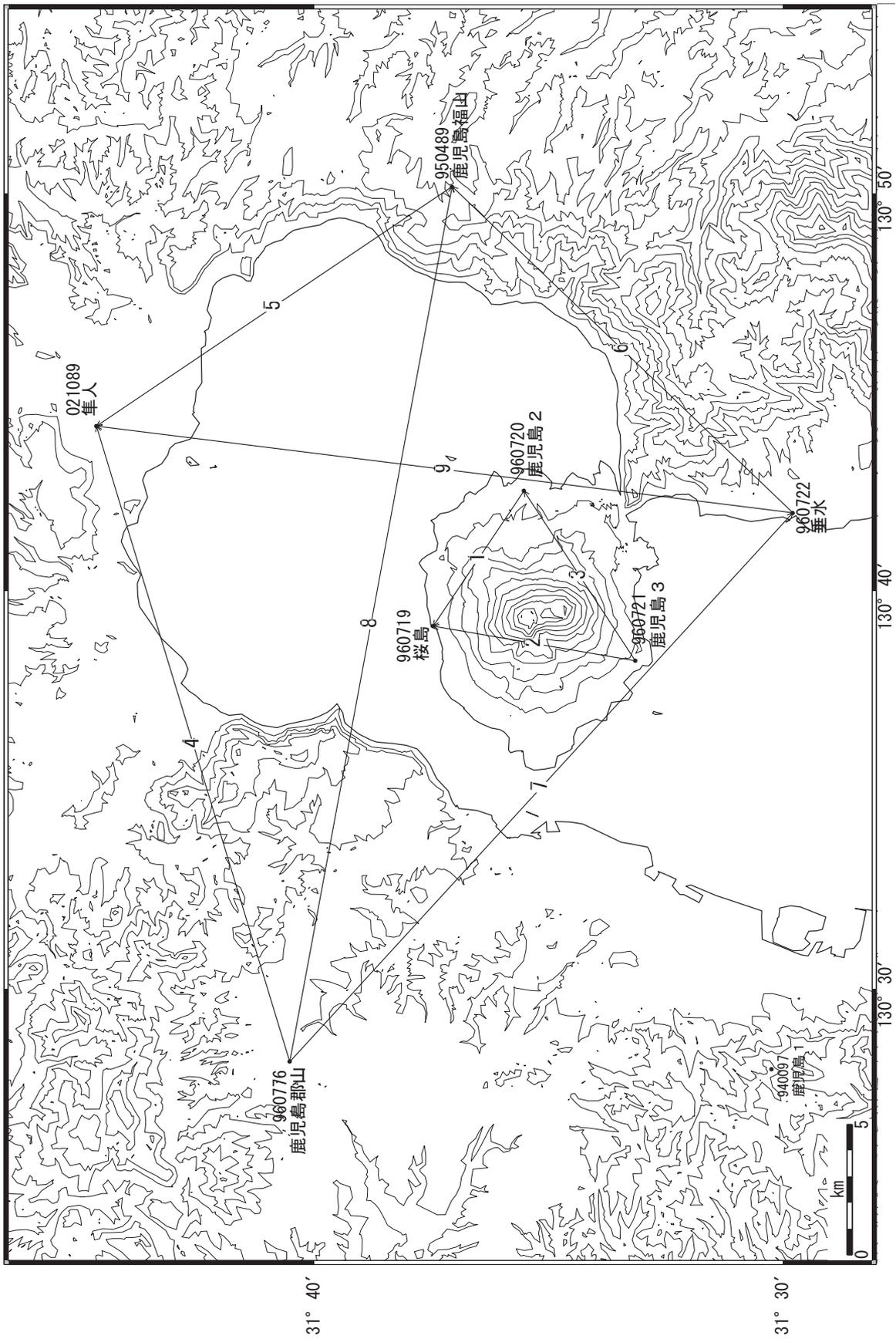
火山ガスの放出量：京大防災研・東京工業大学・東京大学



水準測量の結果：京大防災研



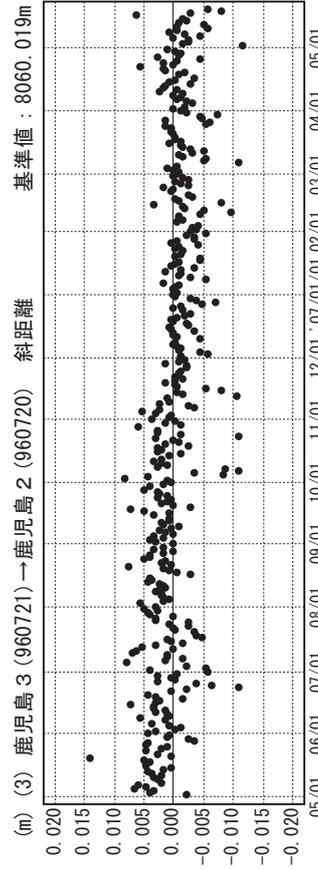
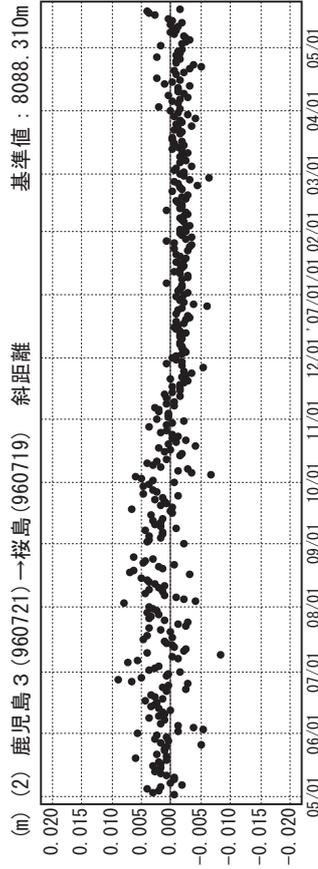
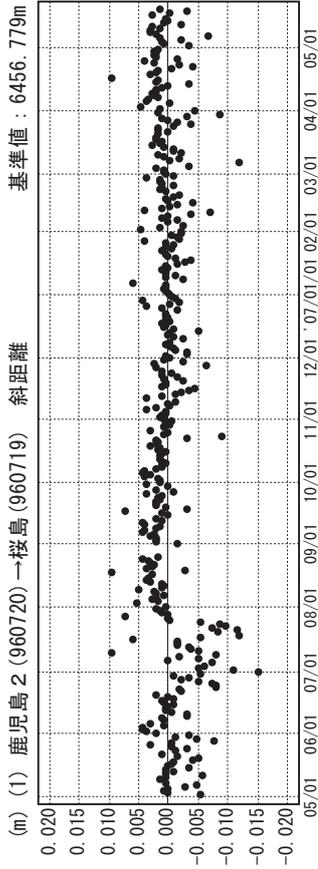
桜島周辺 GPS連続観測基線図



国土地理院

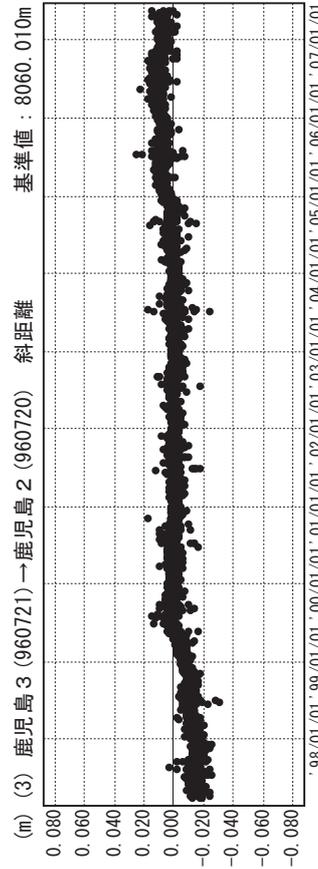
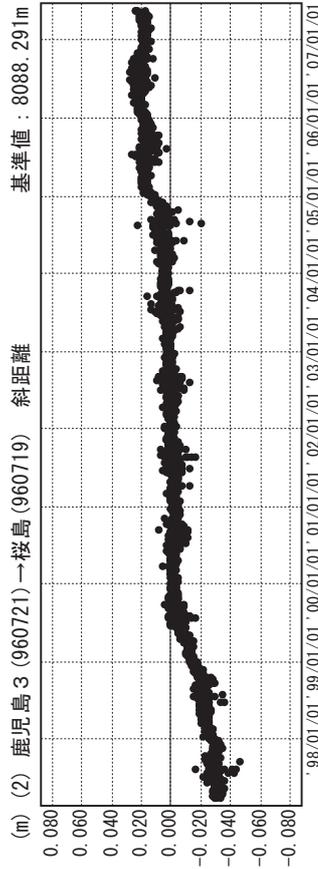
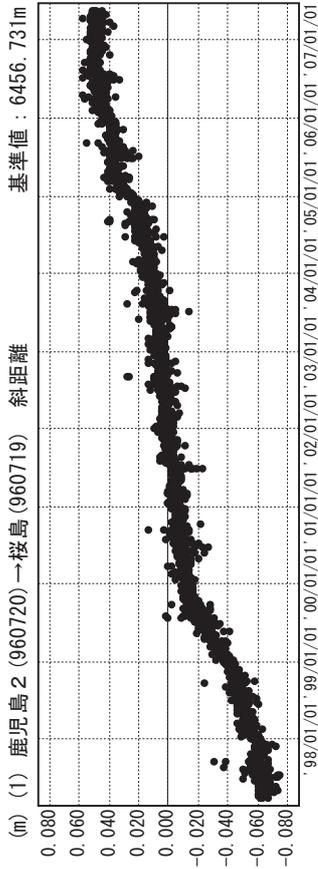
基線変化グラフ (最近の変動)

期間：2006/05/01～2007/05/19 JST



基線変化グラフ (全期間の変動)

期間：1997/04/01～2007/05/19 JST



● --- [F2:最終解]

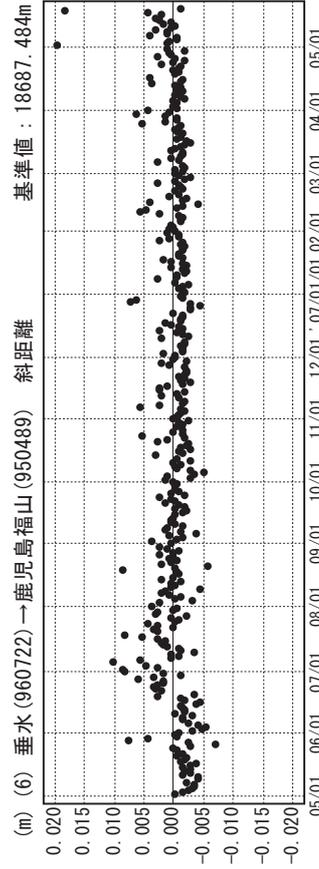
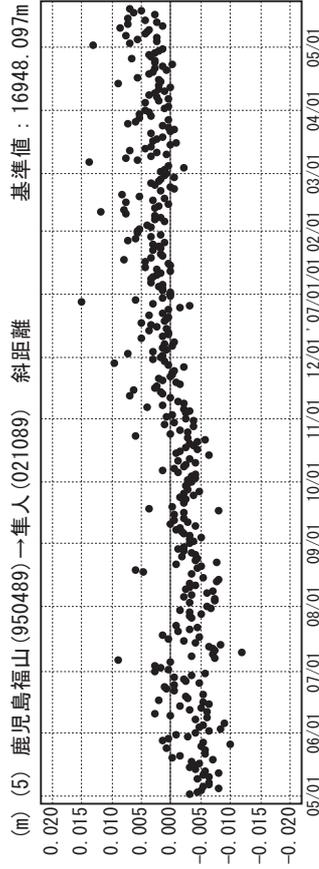
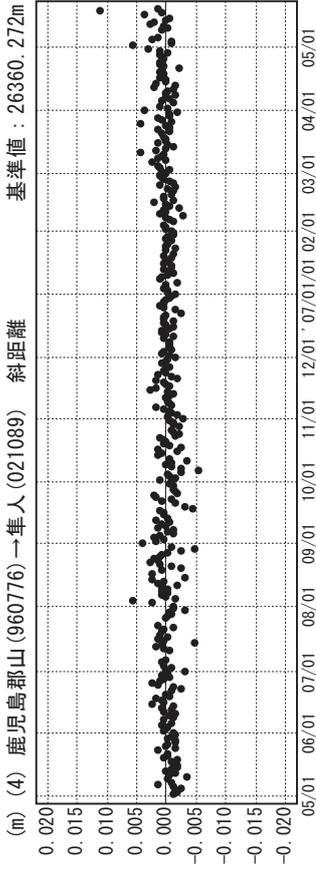
国土地理院

※電子基準点の保守等による変動は補正済み

桜島

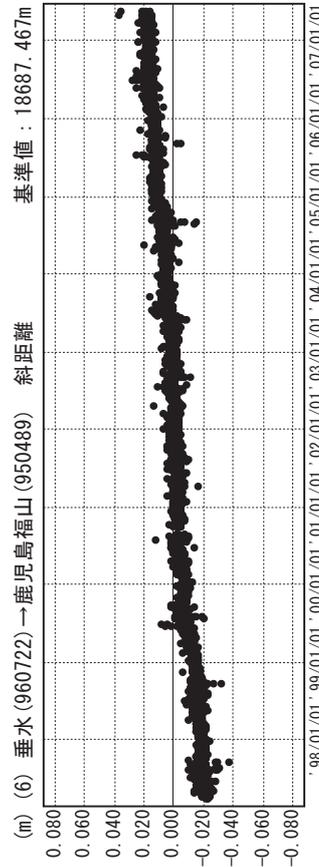
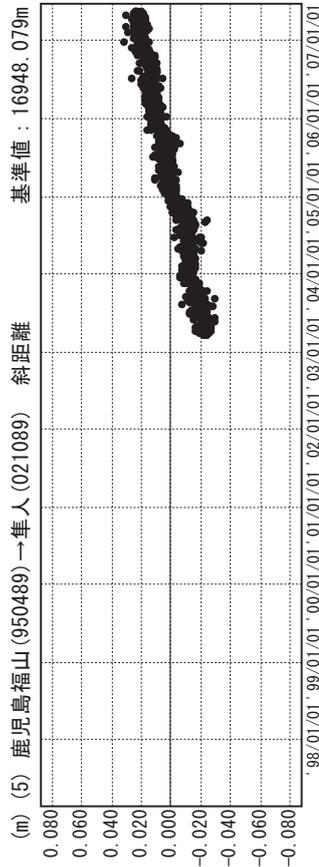
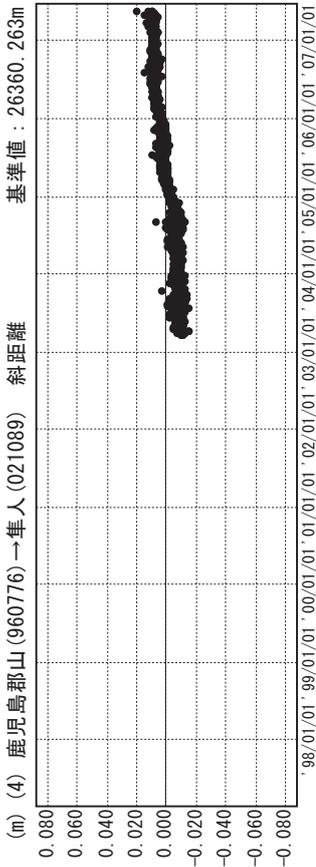
基線変化グラフ (最近の変動)

期間：2006/05/01～2007/05/19 JST



基線変化グラフ (全期間の変動)

期間：1997/04/01～2007/05/19 JST



● --- [F2:最終解]

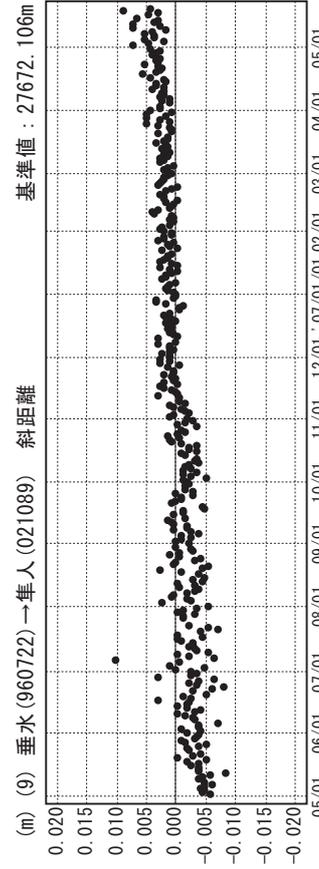
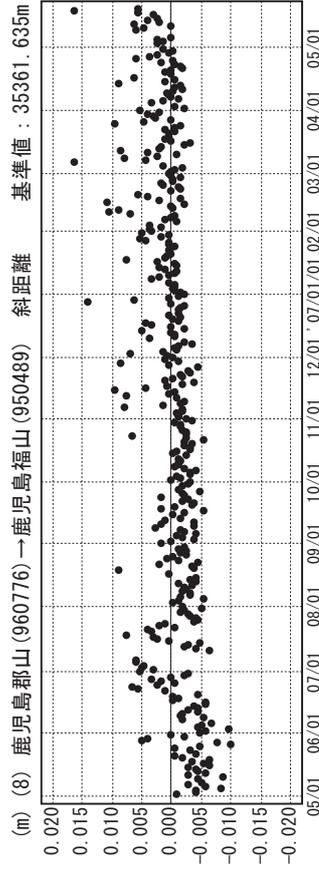
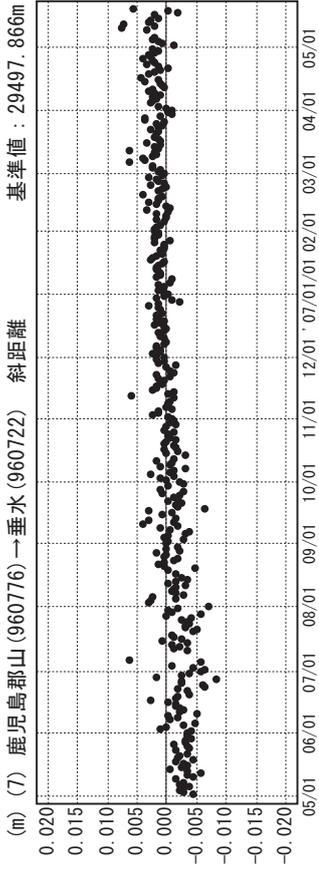
国土地理院

※電子基準点の保守等による変動は補正済み

桜島

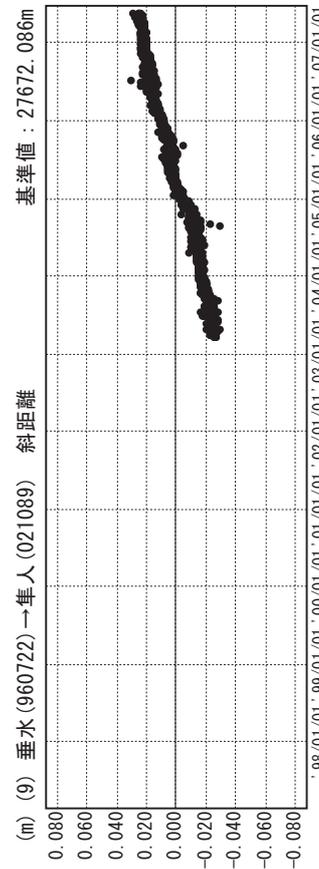
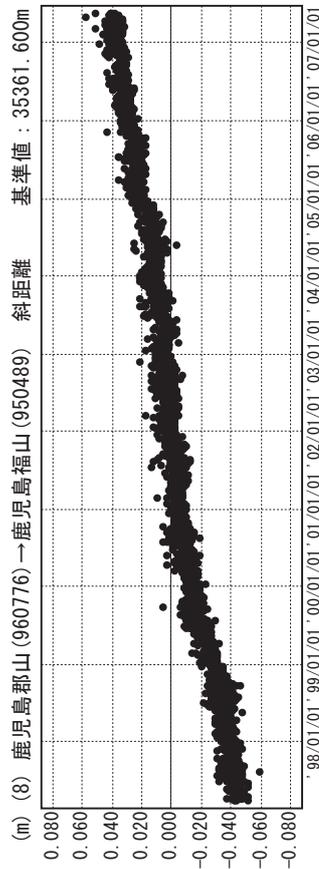
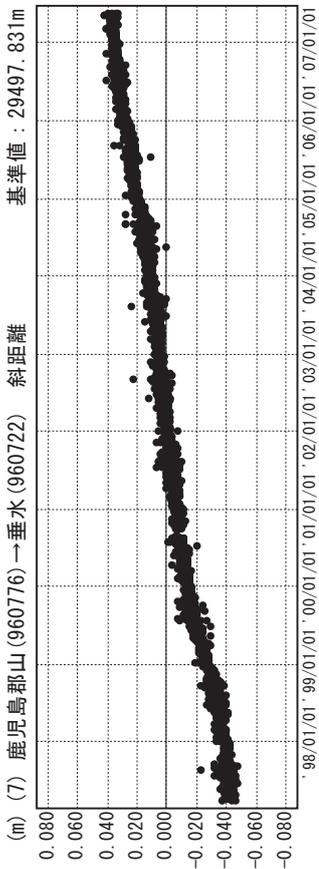
基線変化グラフ (最近の変動)

期間：2006/05/01～2007/05/19 JST



基線変化グラフ (全期間の変動)

期間：1997/04/01～2007/05/19 JST



●---[F2:最終解]

※電子基準点の保守等による変動は補正済み

桜島

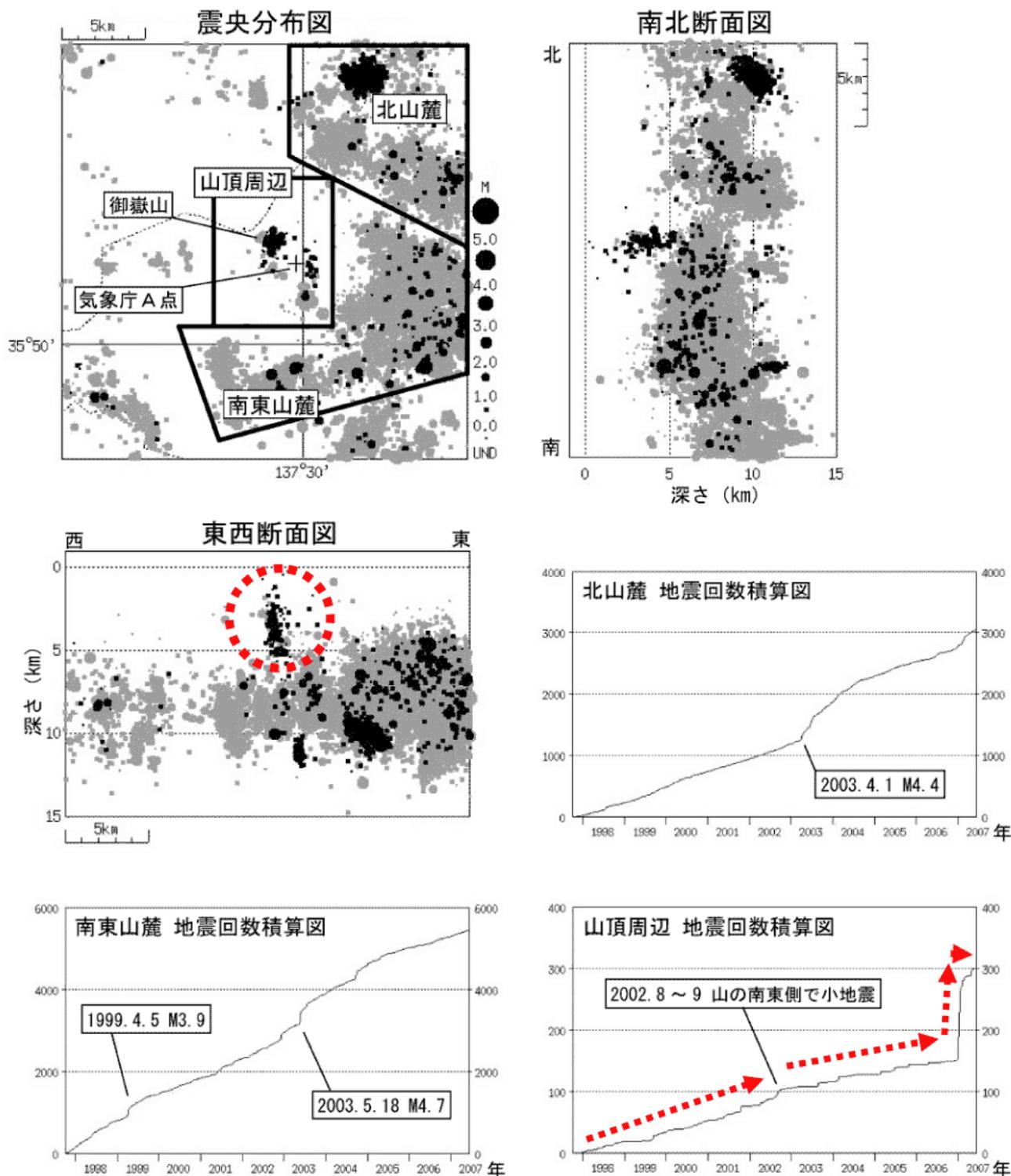


図 1※ 御嶽山 広域地震観測網による御嶽山周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2007 年 6 月 4 日)  
 ● : 2006 年 12 月 1 日～2007 年 6 月 4 日    ● : 1997 年 10 月 1 日～2006 年 11 月 1 日  
 マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。

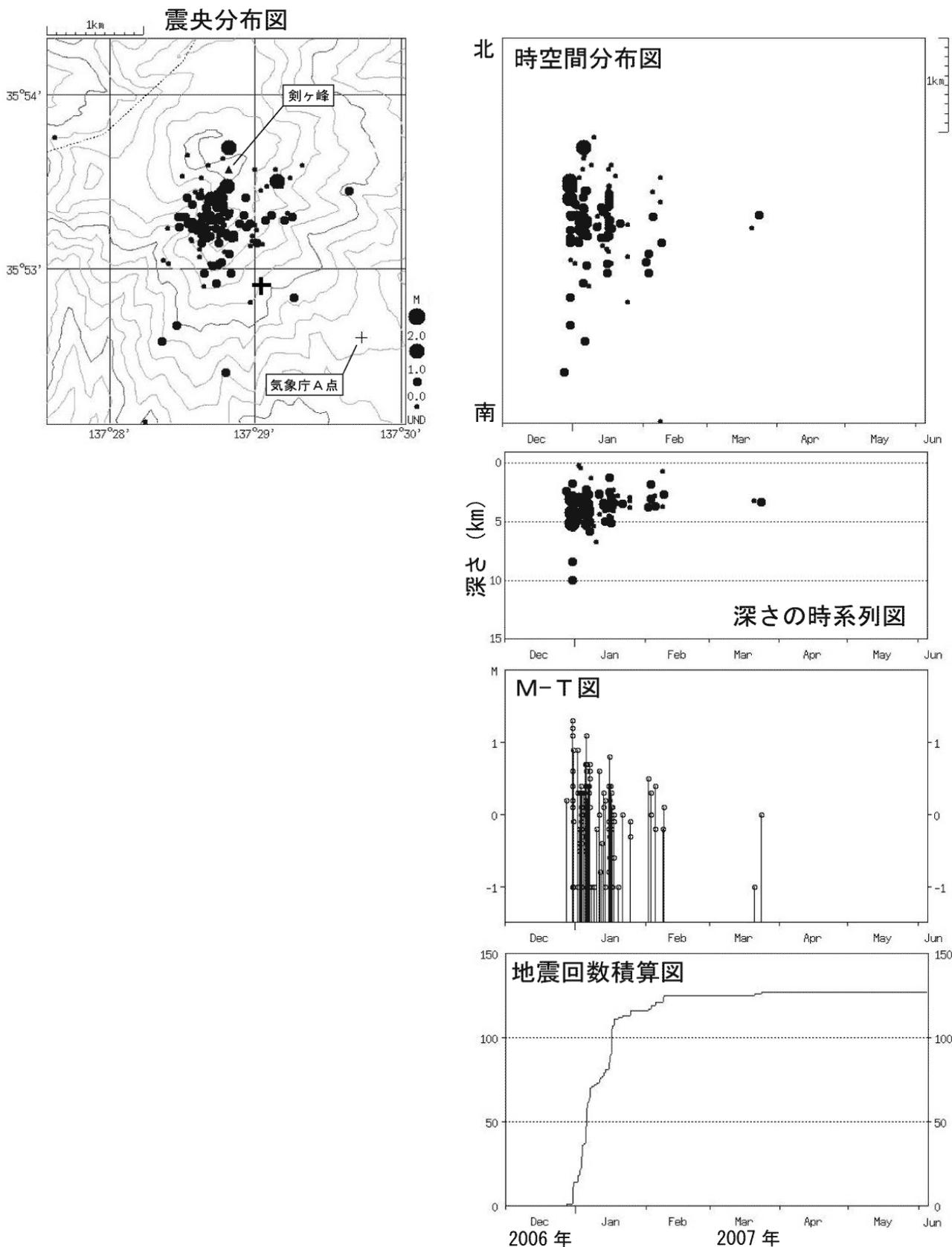


図 2※ 御嶽山 広域地震観測網による御嶽山山頂付近の地震活動  
 (2006 年 12 月 1 日～2007 年 6 月 4 日、マグニチュードは暫定値)  
 マグニチュードは一部暫定値が含まれており、後日変更することがある。

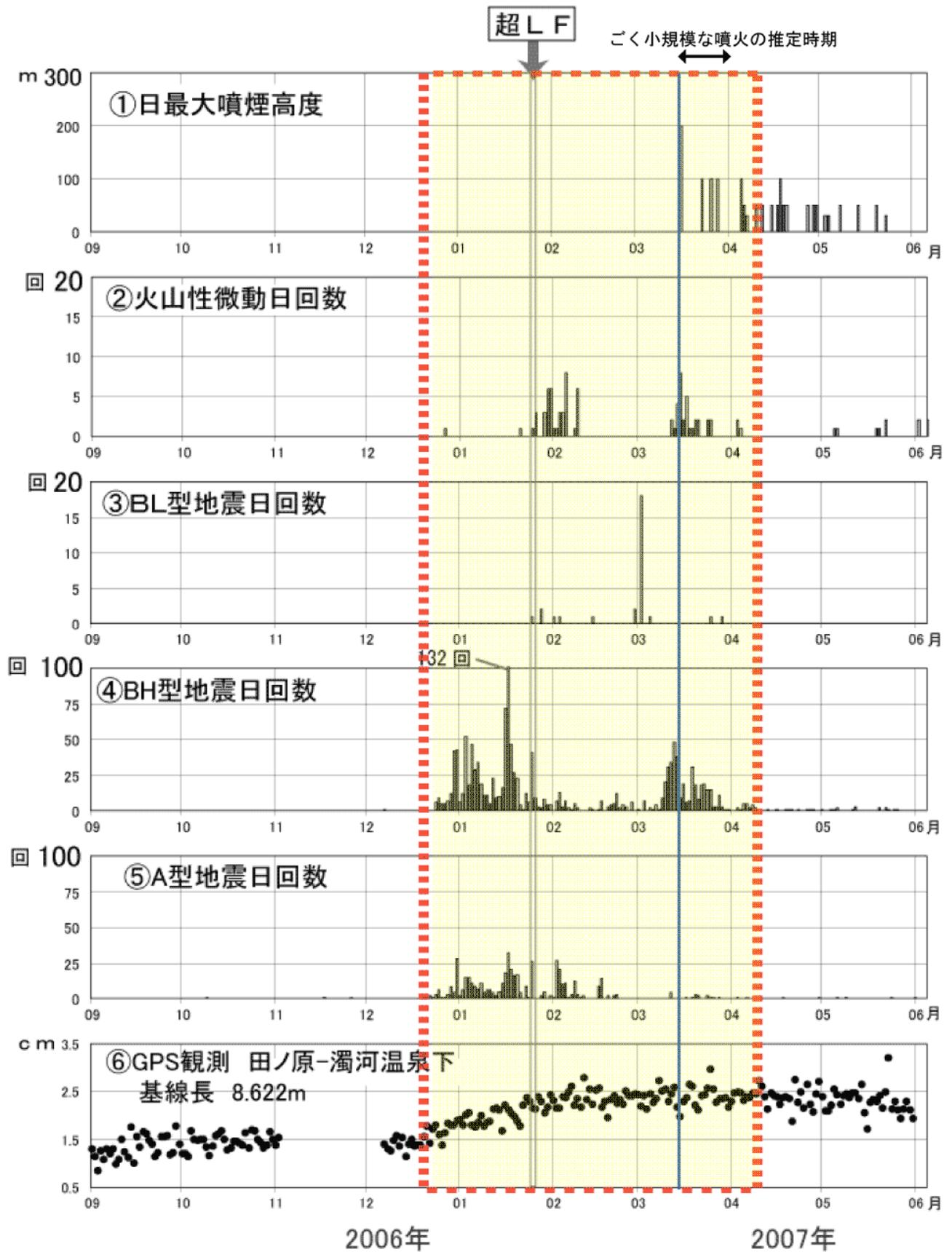


図3\* 御嶽山 火山活動の推移 (2006年9月1日~2007年6月4日)



図 1 8 御嶽山 79-7 火口付近の火山灰の状況 (5 月 29 日撮影)

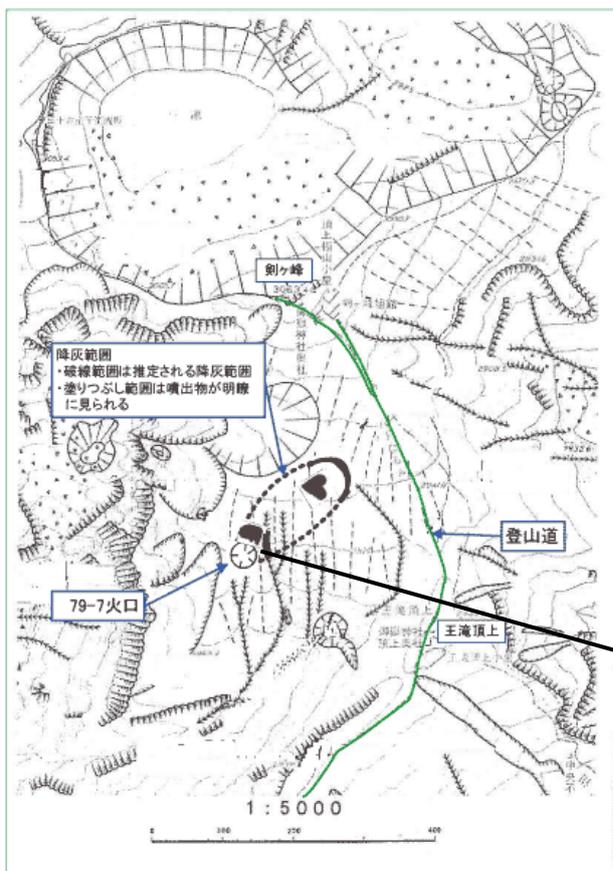


図 1 9 2007 年 5 月 29 日に確認された火山灰分布図および火山灰の写真 (5 月 29 日撮影)

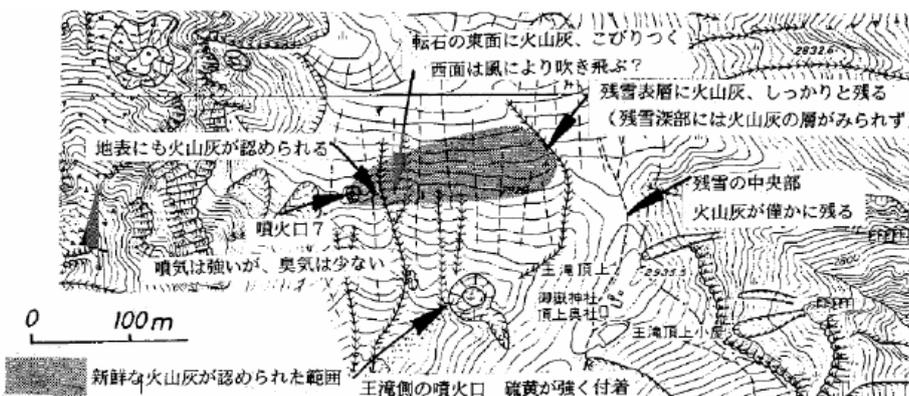


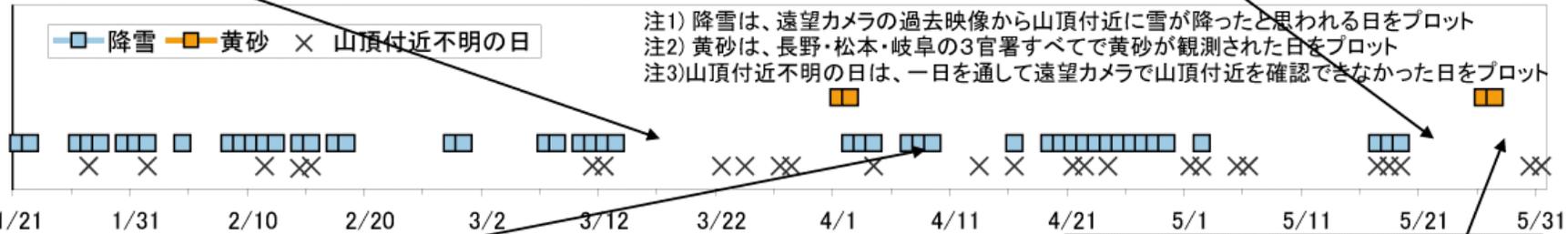
図 2 0 1991 年 5 月のごく小規模噴火時の降灰分布図 (木股ら, 1991)

【御嶽山山頂の雪・黄砂の状況と97-7火口付近画像の変換 (2007/1/21-5/31)】



① 2007/3/17 長野県防災へり協力のもと御嶽山上空より気象庁撮影  
97-7火口は雪で覆われている。周辺に噴出物が広がっているような箇所は見られない。

③ 2007/5/24 王滝頂上より王滝村澤田氏撮影  
97-7火口付近の雪面上部に噴出物が見られる(図中の矢印部分)。



② 2007/4/8 王滝頂上より王滝村澤田氏撮影  
97-7火口付近の雪面下に変色箇所が見られる(図中の破線部分)。

④ 2007/5/29 剣ヶ峰より気象庁撮影  
97-7火口付近のほか、図のように北西側にも噴出物が広がっているような箇所が見られる。また、雪面上部に黄砂が積もっている箇所も見られる。



図2.2 火山灰の噴出時期に関する調査

御嶽山における火山活動 (- 2007 年 5 月)  
名古屋大学環境学研究科

1. 御嶽山周辺の地震の震源分布

1) 御嶽山山頂周辺で発生する地震の震源再決定

2006年12月30日~2007年5月2日

2006年12月30日から2007年5月2日までの御嶽山の地震の震源再決定をした。山頂直下の地震は深さ-1 - 3 kmに鉛直の棒状に分布する。御嶽山の北にある高根直下の深さ7 - 9kmに地震が起こっている。

Double-Difference法(Waldhauser and Ellsworth, 2000)による震源決定プログラム(hypoDD:Waldhauser, 2001)では、観測点高度が走時計算や微分係数計算に考慮されていない。一方、火山では観測点の標高は2000 mを超えることもある震源決定に影響がある。御嶽山もその例外ではない。そこで、観測点標高を考慮して震源再決定をした(及川・他, 2006)。

*Mt. Ontake hypoDDH 2006 / 12 / 30 ---> 2007 / 5 / 2 N=1317*

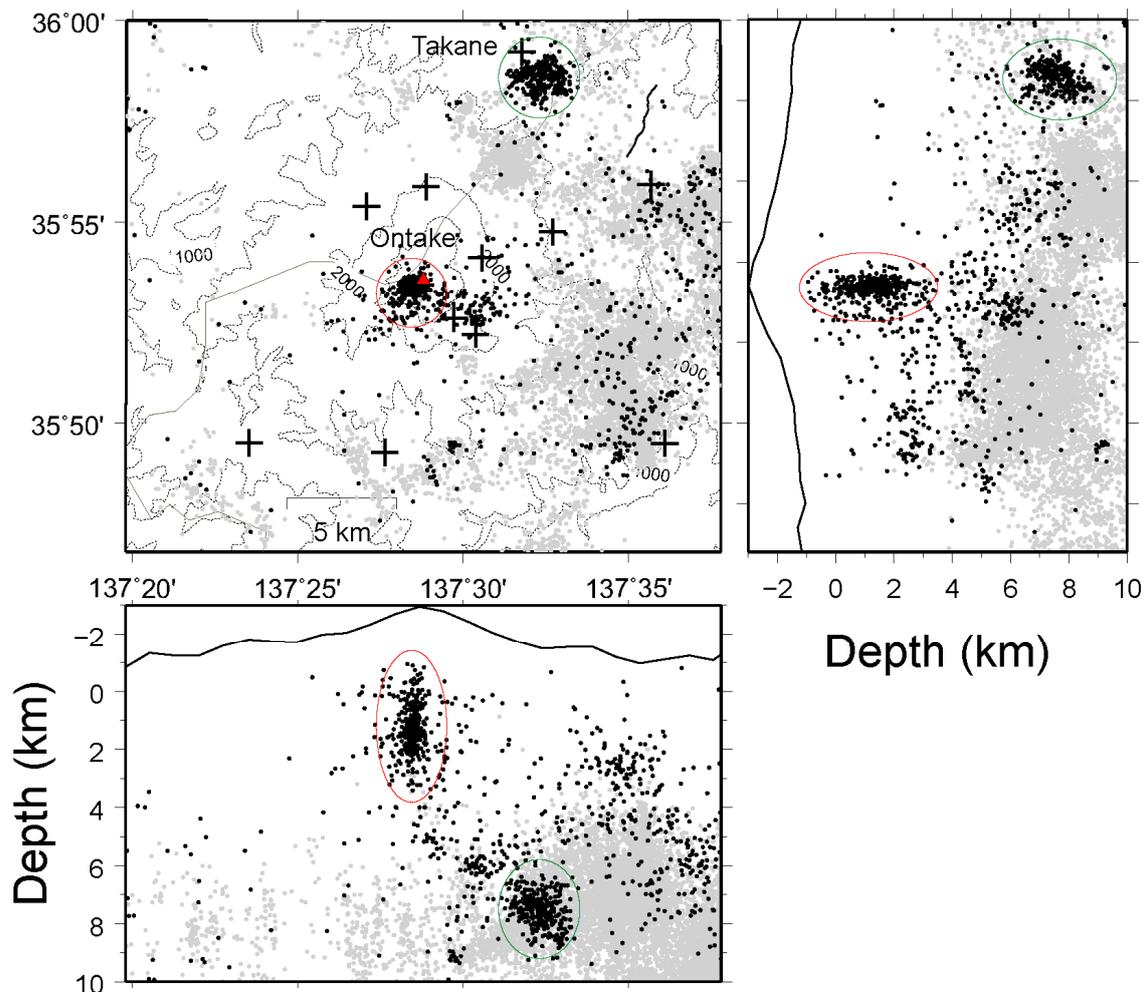
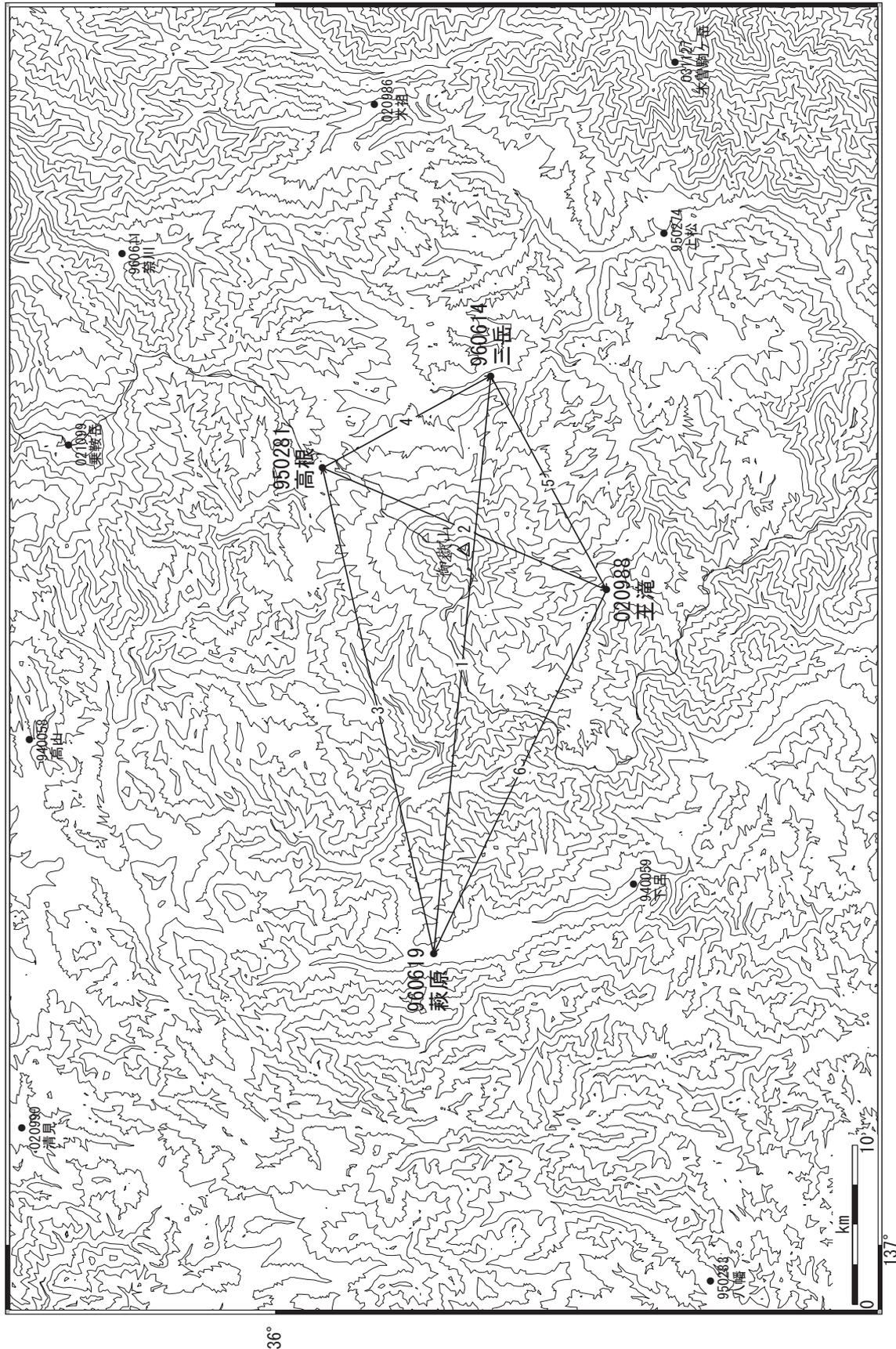


図1. DD法で再決定された御嶽山周辺の地震の震源分布 (2006年12月30日~2007年5月2日)。なお、読み取り処理の都合のためデータは12月30日から2月9日まではすべての時間帯、2月10日から5月2日までは午前零時から6時までの6時間だけである。赤で囲った領域は御嶽山山頂直下の震源位置を示し、緑で囲った領域は高根観測点直下の震源位置を示す。

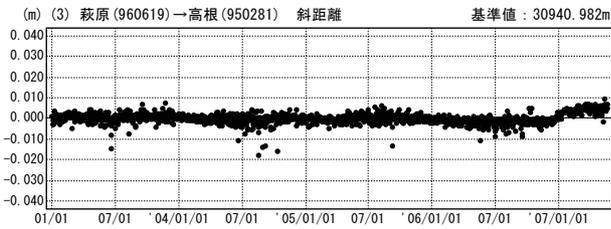
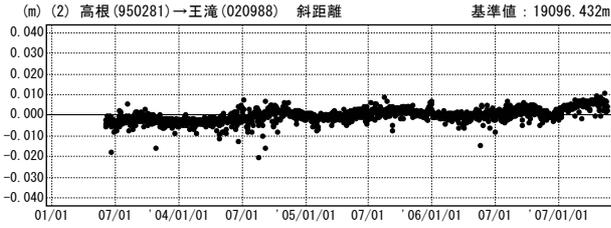
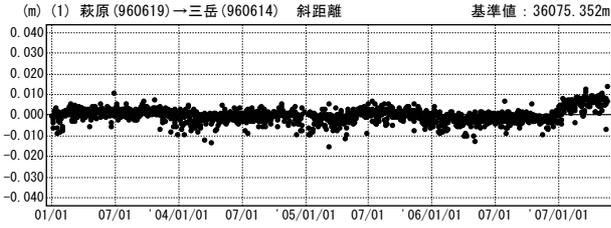
御嶽山地区 GPS連続観測基線図



国土地理院

基線変化グラフ

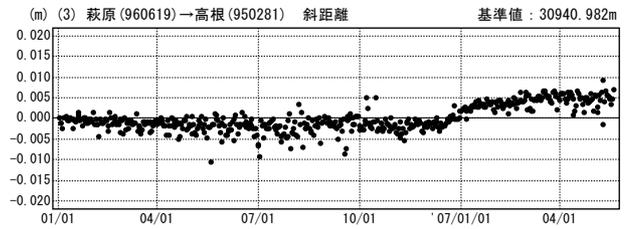
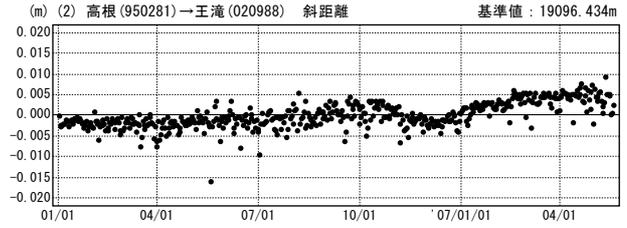
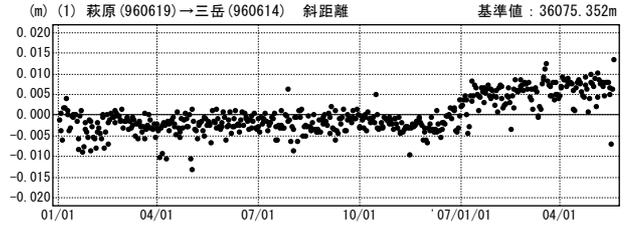
期間：2003/01/01~2007/05/19 JST



●---[F2:最終解]

基線変化グラフ

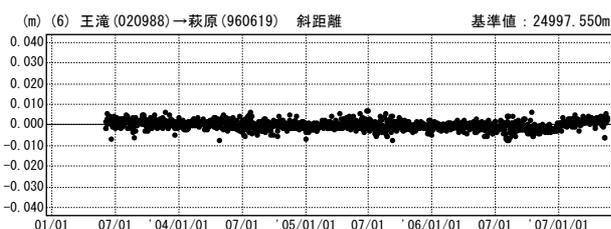
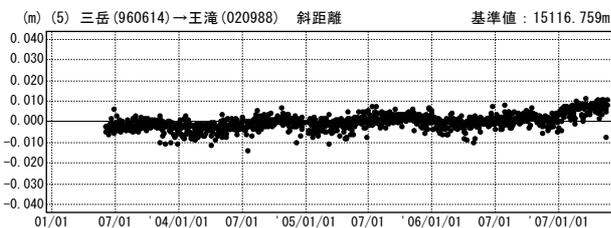
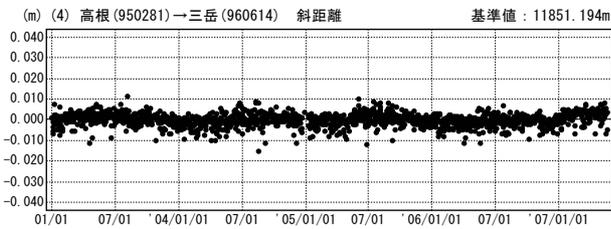
期間：2006/01/01~2007/05/19 JST



国土地理院

基線変化グラフ

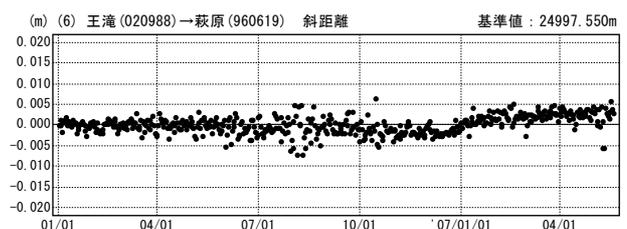
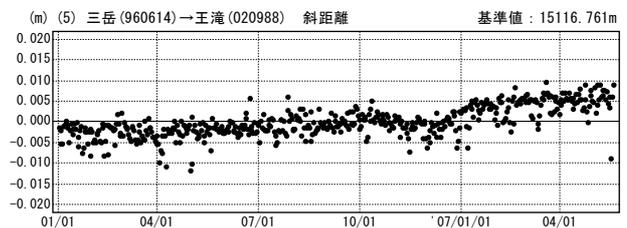
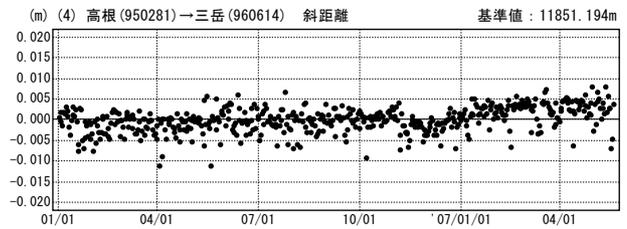
期間：2003/01/01~2007/05/19 JST



●---[F2:最終解]

基線変化グラフ

期間：2006/01/01~2007/05/19 JST



国土地理院

※電子基準点の保守等による変動は補正済み

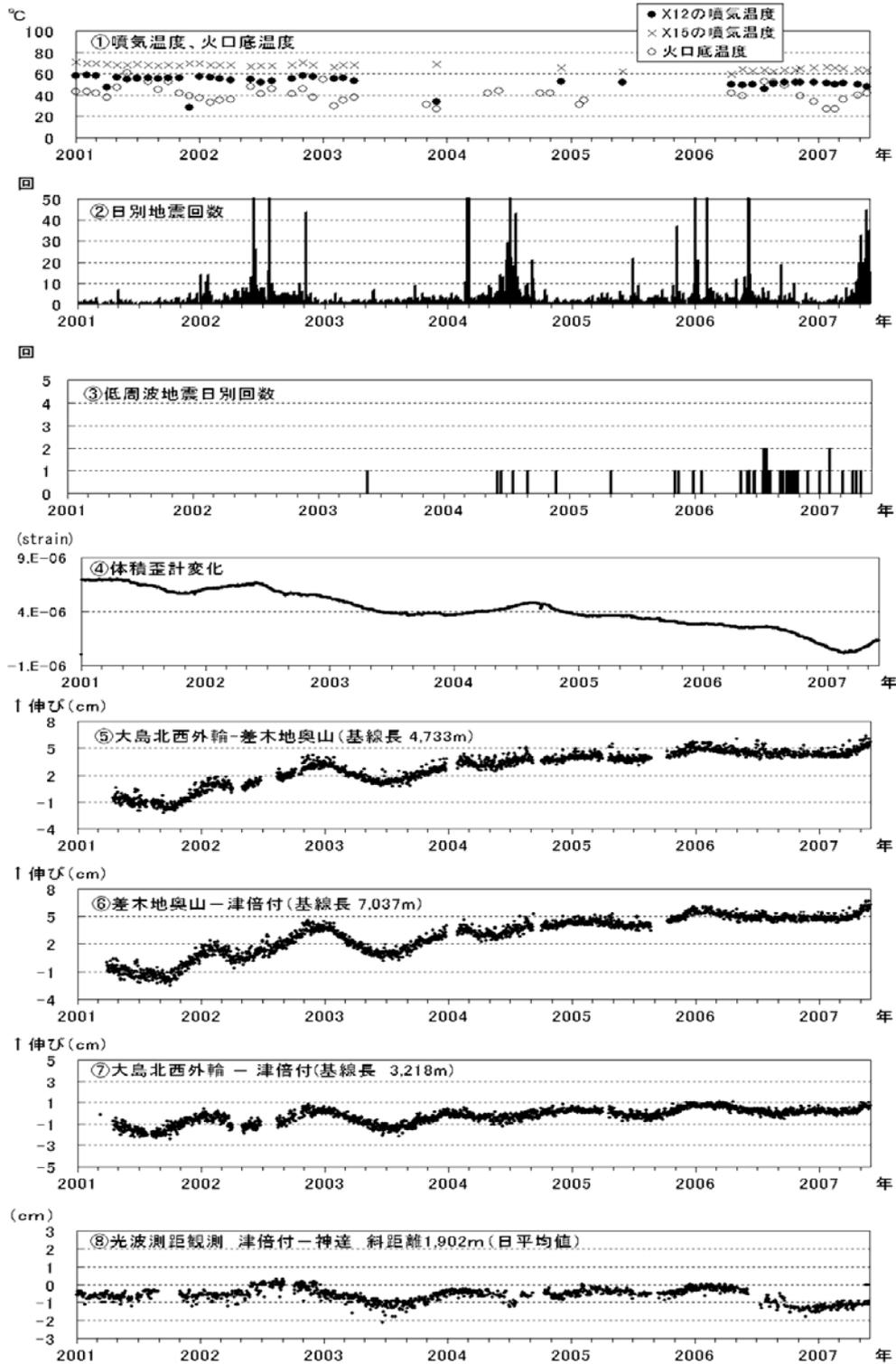


図2 伊豆大島 最近の火山活動経過 (2001年1月~2007年5月)

: 火口底温度 (IR-1) は赤外放射温度計を用いて離れた場所から測定した値、噴気温度 (X-12、X-15) は温度計を用いて直接測定した値

: 体積歪のデータについては温度補正を行っている。また、2001年1月~6月のトレンドを元にトレンドを除去している (図3参照)

~ : GPS連続観測による日平均値 (観測開始は2001年3月7日)  
 (斜距離変化 ~ は図1のGPS基線 ~ に対応している)

: 光波測距観測による日平均値